

稲沢市祖父江地区公立保育園再配置基本方針

令和7年3月

稲沢市子ども健康部保育課

目次	(頁)
1 方針策定の基本的な考え方	1
(1) 背景と趣旨.....	1
(2) 本方針の位置づけ.....	2
2 祖父江地区の公立保育園の現状	2
(1) 施設の状況.....	2
(2) 入園児童数.....	3
(3) 就学前児童数の推移と入園児童数の推計.....	4
3 保育施設を取り巻く財政状況	5
(1) 稲沢市の財政状況.....	5
(2) 保育園等関連経費.....	6
(3) 認可保育園の整備費.....	7
4 アンケート	8
(1) アンケート実施の目的.....	8
(2) アンケート方法.....	8
(3) 結果.....	8
5 ワークショップ	13
(1) 目的.....	13
(2) 開催概要.....	13
(3) ワークショップの実施方法.....	13
(4) 保護者・保育士からの主なアイデア、発表内容.....	15
(5) まとめ.....	18
6 祖父江地区の公立保育園の再配置について	19
(1) 再配置の基本的な方針.....	19
(2) 再配置検討の前提条件.....	19
(3) 祖父江地区の公立保育園等の再配置案について.....	19
(4) 再配置による廃園後の跡地活用について.....	20
7 新保育園整備のコンセプト	24

1 方針策定の基本的な考え方

(1) 背景と趣旨

本市では、令和2年3月に『第2期稲沢市 子ども・子育て支援事業計画』（以下、「事業計画」という。）を策定しました。事業計画は、教育・保育について必要な供給目標量を設定し、提供体制の確保及び業務の円滑な実施等に関する計画となっています。近年、女性の社会進出の増大など社会環境の急激な変化に伴い、保育ニーズが多様化していることから、事業計画に基づき、年度途中の定員の弾力的運用による受入れ等で対応し、保育の提供体制の確保を図ってきました。

一方で、平成25年6月に策定した『公共施設再編に関する考え方』において、今後の公立保育園の見直しの考え方として(1) 将来の乳幼児数の減少を見据え、公立と私立が過当競争に陥らないよう、両者が共存できる環境を整える、(2) 今後の制度改正、待機児童を生じさせない、地域バランスへの配慮といった諸条件に対応できる定員数を確保する、(3) 民営化も選択肢の一つとして検討する、という三つの考え方を基本とすることとされ、見直しにあたっては、公立保育園の施設定員を1,000人程度削減する方向で検討することとしています。また、令和4年3月に改訂された『稲沢市公共施設等総合管理計画』においては、令和3年3月に策定した『稲沢市立保育園再編計画(個別施設計画)』に基づき、集約化・民営化等に向け検討することとされています。

祖父江地区の公立保育園は6園あり、牧川保育園を除いた5園は昭和40年代の木造建築物で築後50年以上を経過しています。老朽化が進行している状況にあるため、大規模改修・建替えに、早急に取り組んでいく必要があります。

また、祖父江地区の児童数は減少傾向であり、令和5年3月末をもって長岡保育園が、令和6年3月末をもって山崎保育園が、児童数の減少により休園となりました。今後は、全ての園で大規模改修・建替えを行うのではなく、祖父江地区全体での保育施設の適切な総量を検討した上で、計画的に行う必要があります。

これらの背景から、本方針では、人口減少や少子化、女性の社会進出の増大といった社会環境の変化や、園舎の老朽化に対応するため、祖父江地区の公立保育園再配置の基本的な考え方、方針について定めるものです。

(2) 本方針の位置づけ

本方針は『稲沢市ステージアッププラン（第6次稲沢市総合計画）』と『稲沢市公共施設等総合管理計画（令和4年3月改訂）』を上位計画とし、『稲沢市立保育園再編計画（個別施設計画）』を補完する関連方針として位置づけます。

2 祖父江地区の公立保育園の現状

(1) 施設の状況

図1に稲沢市の保育園・幼稚園の配置状況を示します。祖父江地区は市の西側に位置し、公立保育園6園、私立幼稚園1園が配置されています。祖父江地区の公立保育園の周辺には、小学校が隣接されています。

表1に祖父江地区公立保育園の施設状況を示します。祖父江地区の公立保育園6園のうち、牧川保育園を除いた5園は昭和40年代に建築された木造建築物であり、築後50年を経過しています。図2に示すように、建具の不具合など、老朽化が進行している状況です。敷地については、丸甲保育園の一部に借地がある以外は、すべてが市有地です。

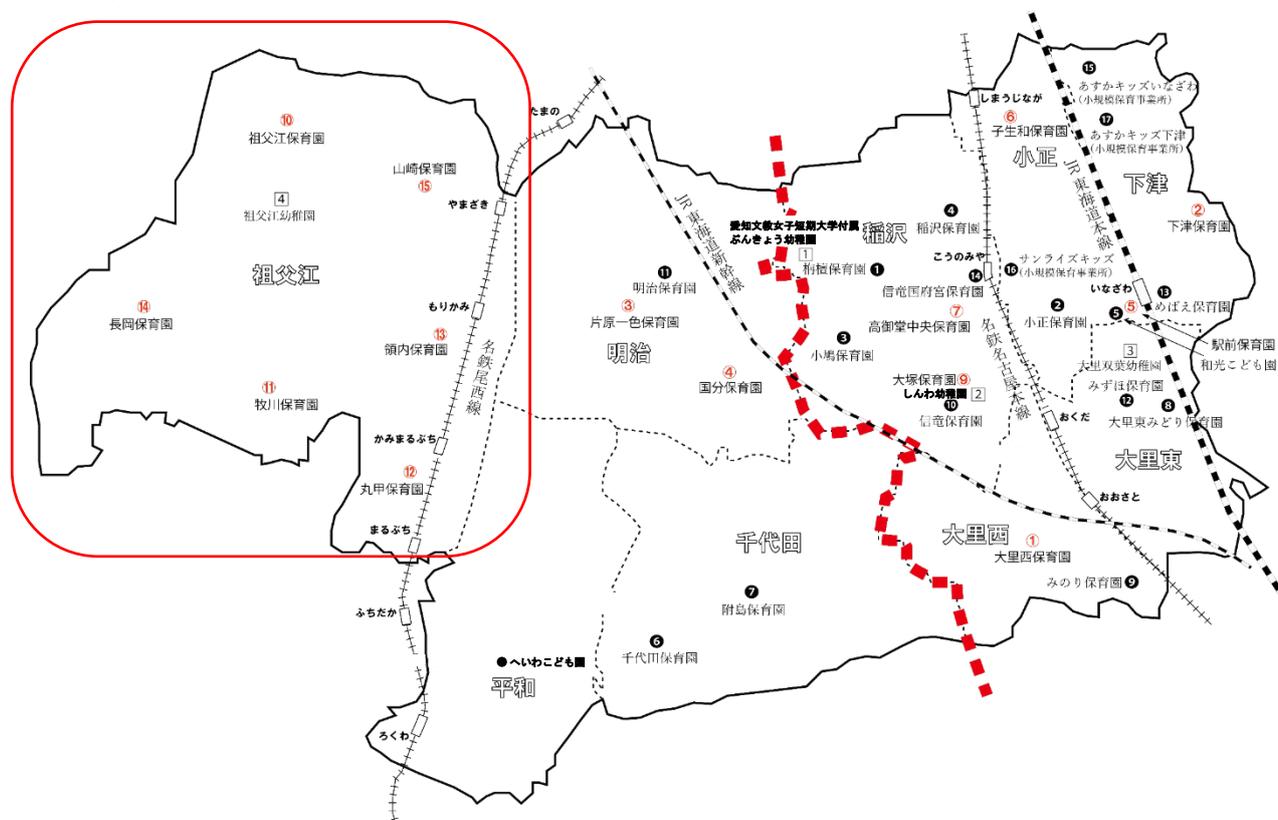


図1 稲沢市の保育園・幼稚園の配置状況

表1 祖父江地区公立保育園の施設状況

	建築年度	建物面積	構造	敷地面積	敷地の所有状況	
					市有地	借地
祖父江保育園	S45	896.17 m ²	木造平屋建	3,755.00 m ²	3,755.00 m ²	0.00 m ²
牧川保育園	H10	1,010.72 m ²	木造平屋建	4,755.99 m ²	4,755.99 m ²	0.00 m ²
丸甲保育園	S44	901.40 m ²	木造平屋建	4,954.20 m ²	4,939.00 m ²	15.20 m ²
領内保育園	S47	1,316.32 m ²	木造平屋建	5,483.33 m ²	5,483.33 m ²	0.00 m ²
長岡保育園	S48	867.80 m ²	木造平屋建	2,634.44 m ²	2,634.44 m ²	0.00 m ²
山崎保育園	S45	748.83 m ²	木造平屋建	2,514.00 m ²	2,514.00 m ²	0.00 m ²



図2 祖父江地区公立保育園の老朽化状況

(2) 入園児童数

表2に令和6年5月1日現在の祖父江地区公立保育園の入園児童数を示します。また、参考として、表3に祖父江幼稚園の入園児童数を示します。

『稲沢市立保育園再編計画(個別施設計画)』では、協働性を育み、子ども同士で学びあえる環境としての集団を形成するには、4・5歳児であれば21人以上など、一定規模の児童数が必要と考えています。また、1クラス10人以下では保育効果が達成でき

ないと考え、1クラス10人未満となった場合は、異年齢での混合保育を行っています。

本市としては、園全体で20人の幼児が在籍することが必要と考えますが、それに満たない保育園が出てきたため、令和5（2023）年3月末をもって長岡保育園を、令和6（2024）年3月末をもって山崎保育園を休園としました。

なお、補助金や起債の関係で令和8（2026）年度を越えないと園舎の解体ができないこと、祖父江地区の乳児保育の需要と供給の状況が不明であることから、閉園ではなく休園としています。

表2 祖父江地区公立保育園の入園児童数（令和6年5月1日現在）

保育園名	利用定員 (人)	年齢別内訳(人)							備考	入園率 (%)
		合計	5歳	4歳	3歳	2歳	1歳	乳児		
祖父江保育園	100	91	25	20	12	17	16	1	6か月から	91.0
牧川保育園	120	109	26	23	21	17	17	5	6か月から	90.8
丸甲保育園	60	48	7	6	10	12	13	0	満1歳から	80.0
領内保育園	200	173	42	36	40	29	22	4	6か月から	86.5

表3 祖父江幼稚園の入園児童数（令和6年5月1日現在）

幼稚園名	利用定員(人)	年齢別内訳(人)							入園率 (%)
		合計	5歳	4歳	3歳	2歳	1歳	乳児	
祖父江幼稚園	255	90	36	30	24				35.3

(3) 就学前児童数と入園児童数の推計

図3に祖父江地区の就学前児童数の推移と将来推計人口のグラフを示します。実績値は平成29（2017）年から令和6（2024）年までの各年4月1日時点の住民基本台帳の登録人口で、推計値は平成31（2019）年4月1日時点及び令和6（2024）年4月1日時点の住民基本台帳の登録人口をもとにコーホート変化率法により推計したものになります。0歳から5歳までの人口は直近5年間で減少傾向にあり、今後もこの傾向は続くものと思われま。

将来推計人口をもとに祖父江地区の保育園入園児童数を推計した結果が表4になります。20年後の2039年度には入園児童が301人との推計結果になりますが、今後、女性の社会進出の増大などにより、乳児保育のニーズが高まるであろうことも念頭に入れると、祖父江地区全体での保育園の利用定員は当面は500人前後、認可定員は600人前後を軸に検討する必要があると考えます。

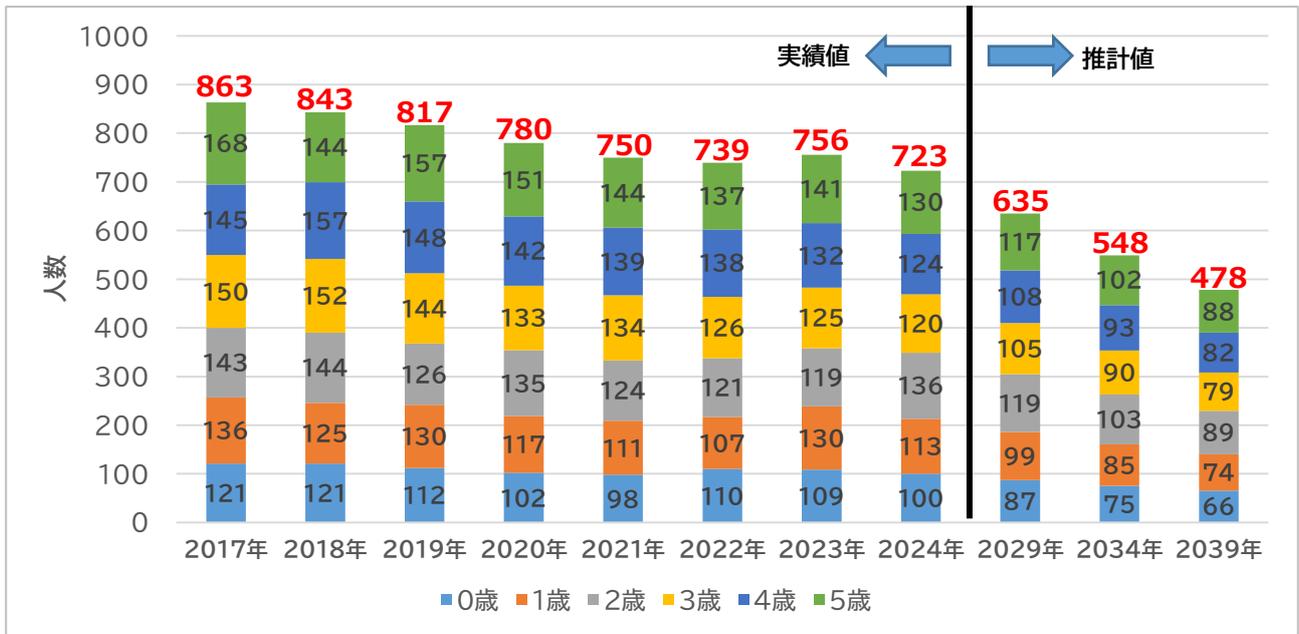


図3 祖父江地区の就学前児童数の推移と将来推計

表4 祖父江地区保育園入園児童の将来推計

単位:人

	2024 (令和6) 年度			2029 (令和11) 年度			2034 (令和16) 年度			2039 (令和21) 年度									
	学齢別計	乳児・幼児別計	入園児童数	学齢別計	乳児・幼児別計	入園児童数※1	学齢別計	乳児・幼児別計	入園児童数※1	学齢別計	乳児・幼児別計	入園児童数※1							
0歳	100	349	133	87	305	122	75	263	105	66	229	91							
1歳	113			(38.1%)			99			85			74						
2歳	136			119			103			89									
3歳	120			374			238			105			330	231	285	199	79	249	174
4歳	124									(63.6%)							108		
5歳	130	117	102		88														
計	723	723	371	635	635	353	548	548	304	478	478	265							
祖父江地区外からの入園児童数※2			51 (12.1%)			48			41			36							
合計			422			401			345			301							

※1 2024 (令和6) 年度の実績から入園率を乳児 (0~2歳児) 40%、幼児 (3~5歳児) 70%と推定

※2 祖父江地区外からの入園児童を入園児童数全体の12%程度と推定

3 保育施設を取り巻く財政状況

(1) 稲沢市の財政状況

図4に歳入決算額 (普通会計)、図5に歳出決算額 (普通会計) の過去10年間の推移を示します。

歳入状況は、市税がほぼ同水準で推移しています。また、令和2 (2020) 年度は、新型コロナウイルス感染症対策として実施した特別定額給付金事業等の影響により、国

庫支出金が大幅に増加しています。

歳出状況は、全体的に微増傾向にあり、特に扶助費については増加傾向にあります。令和2（2020）年度は、新型コロナウイルス感染症対策として実施した特別定額給付金事業等の影響で補助費等が大幅に増加したため、653億円まで増加しています。

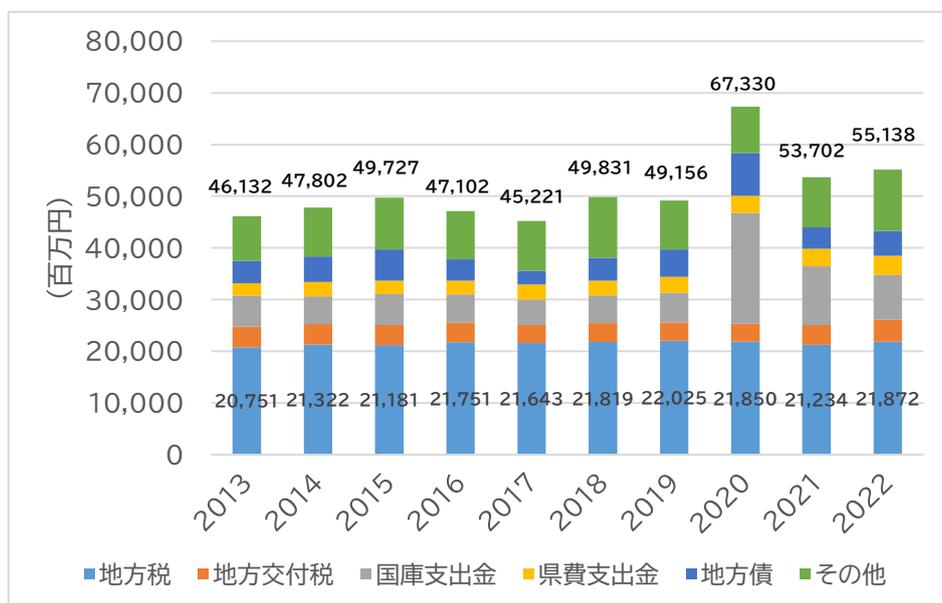


図4 歳入決算額の推移（普通会計）

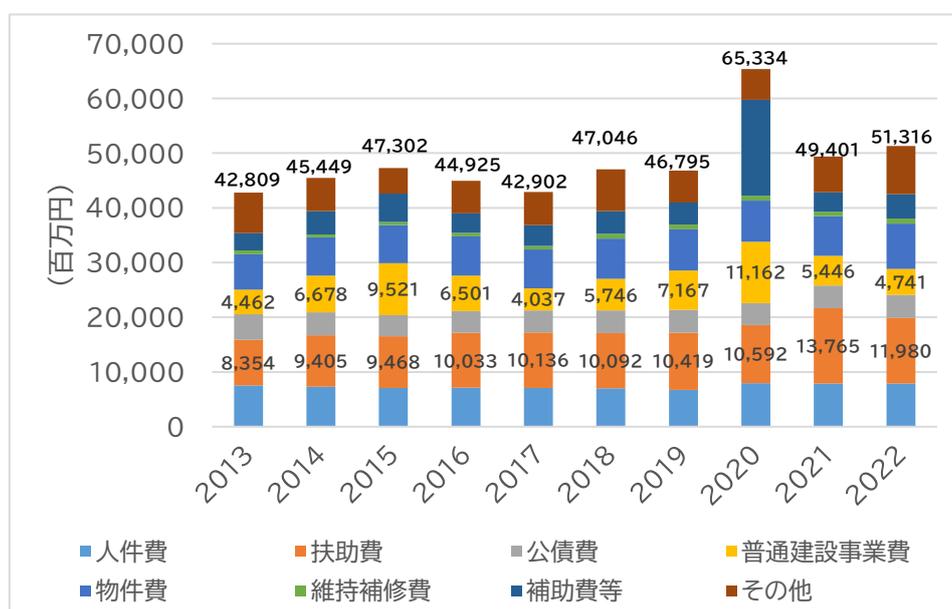


図5 歳出決算額の推移（普通会計）

(2) 保育園等関連経費

図6に保育園等関連経費の決算の推移について示します。維持補修費については、施設の老朽化が進行しているため、年々増加傾向にあります。普通建設事業費について、令和元（2019）年度と令和3（2021）年度に突出しているのは、令和元（2019）年度に梅檀保育園（社会福祉法人 梅檀福祉会）が保育園から認定こども園へ移行した上で、

園舎の建替えを行ったため、その建設費用に対する補助金を支出しています。令和3（2021）年度については、六輪幼稚園（学校法人 藤浪学園）と平和地区の公立保育園3園を集約化し、旧平和支所跡地にへいわこども園（学校法人 藤浪学園）が設置されたため、その建設費用に対する補助金を支出しています。

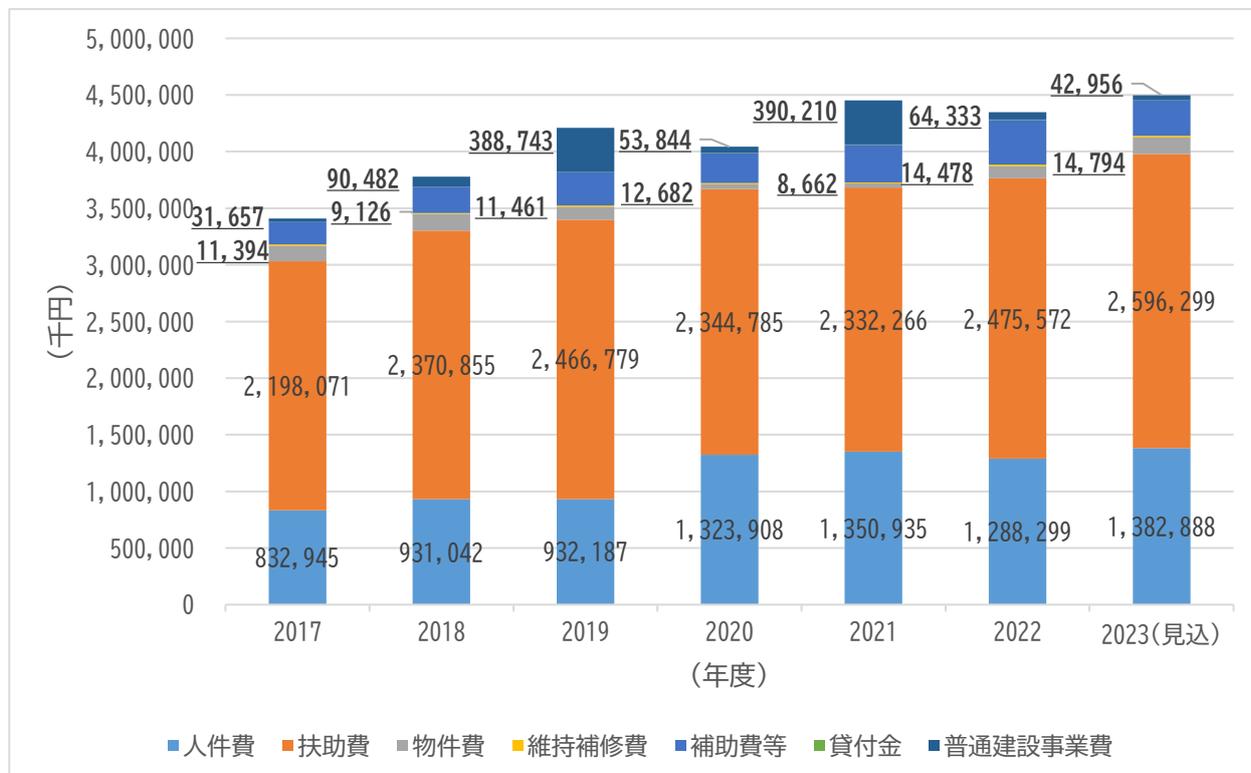


図6 保育園関連決算の推移

(3) 認可保育園の整備費

平成16（2004）年度以降、国の「三位一体改革」により、地方自治体の自主財源の充実の観点から、国から地方自治体へ税源を移譲するとの名目で、一部の国庫支出金が廃止され、一般財源化されました。

公立保育園の新設や改築などの整備費においては、この「三位一体改革」により、図7のように国・県支出金が一般財源化されました。現在、認可保育園等の整備に関する国・県の補助金は、公立保育園を除く民間施設のみが対象となっています。

平成 16 年以前	国 1 / 2	県 1 / 4	市 1 / 4
平成 17 年以降	市 全額負担		

図7 公立保育園の新設・改築等に伴う整備費の負担割合

4 アンケート

(1) アンケート実施の目的

祖父江地区の保育園を利用されている保護者及び稲沢市の公立保育園に勤務している保育士を対象に、祖父江地区の公立保育園の園舎や保育環境について考えをお聞きすることを目的に実施しました。

(2) アンケート方法

対象者	祖父江地区の公立保育園の通園児の保護者 稲沢市の公立保育園に勤務する保育士	427 人 242 人
アンケート方法	Web フォーム	
アンケート期間	令和 6 (2024) 年 5 月 15 日 (水) から 令和 6 (2024) 年 6 月 14 日 (金) まで	30 日間
回答者数	祖父江地区の公立保育園の通園児の保護者 稲沢市の公立保育園に勤務する保育士	208 人 (48.7%) 175 人 (72.3%)

(3) 結果

ア 通園方法（保護者のみ）

図8は通園方法に関するアンケート結果のグラフです。約9割の保護者の方が自動車による通園方法とのことでした。「その他」については、「徒歩もしくは自動車」とのことでした。

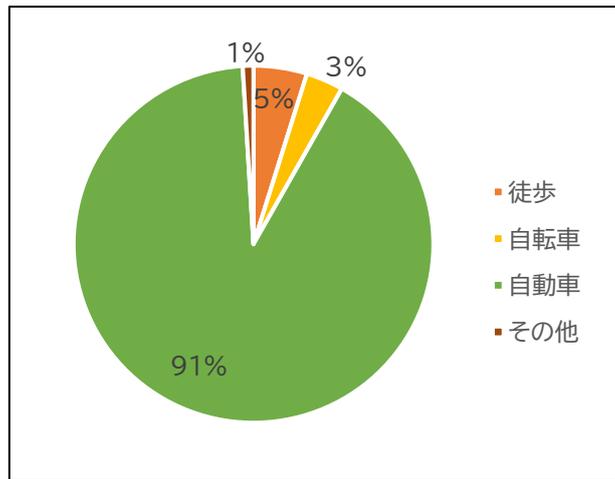


図8 保育園の通園方法

イ 小学校区と通園先（保護者のみ）

図9は小学校区と通園先に関するアンケート結果です。祖父江地区の公立保育園は小学校と隣接していることから、公立保育園を希望する保護者の多くは、通学予定の小学校に隣接している保育園へ入園を希望する傾向があります。

山崎小学校区、長岡小学校区の児童については、山崎保育園、長岡保育園が休園しているため、山崎小学校区なら祖父江保育園や領内保育園、長岡小学校区なら牧川保育園や祖父江保育園と、距離が近い保育園に入園していることが分かりました。

丸甲保育園について、「その他」が12人となっており、「その他」の内訳をみると、10人が平和地区の小学校区、2人が明治地区の小学校区でした。

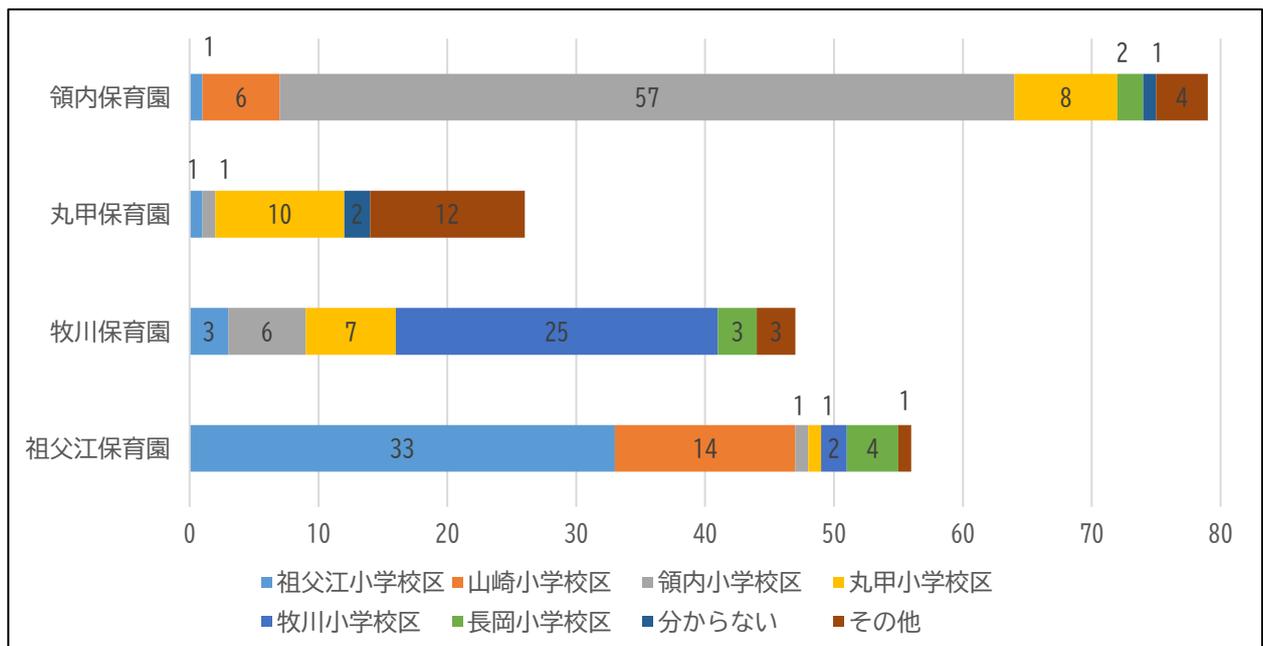


図9 小学校区と通園先

ウ 満足度

図10は保護者、図11は保育士の、現状の祖父江地区の公立保育園の施設・設備面に関する満足度を示したグラフになります。

「送迎時の自動車等の駐停車のスペース」については、保護者、保育士ともに「やや不満」「不満」と回答した者が5割以上を占める結果となりました。

「園庭の広さ」、「保育室、乳児室の広さ」については、保護者、保育士ともに「満足」、「やや満足」、「普通」と回答した者が5割以上を占める結果となりました。

園舎及び設備面の老朽化については、保護者の回答は「やや不満」「不満」と回答した者が2割程度の結果となり、保育士の回答は「やや不満」「不満」と回答した者が5割以上を占める結果となりました。

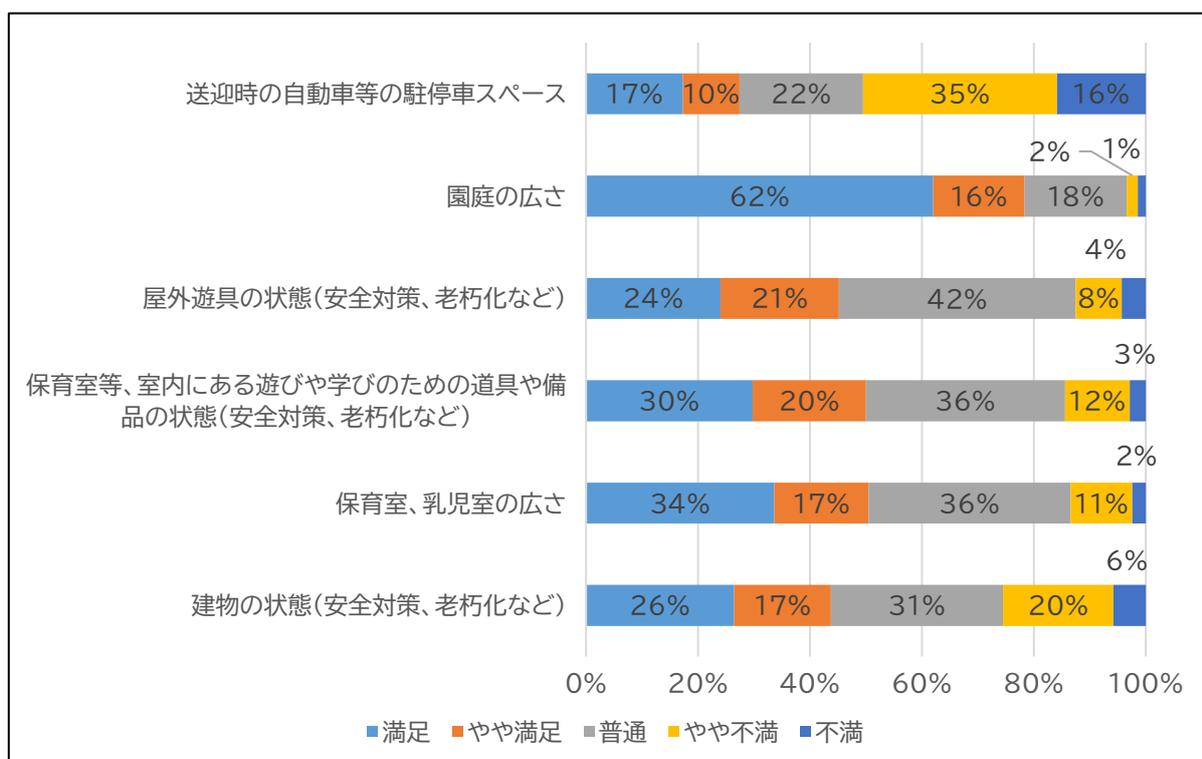


図10 満足度（保護者）

※ 割合（％）については、端数処理の結果、合計が100％にならない場合があります。

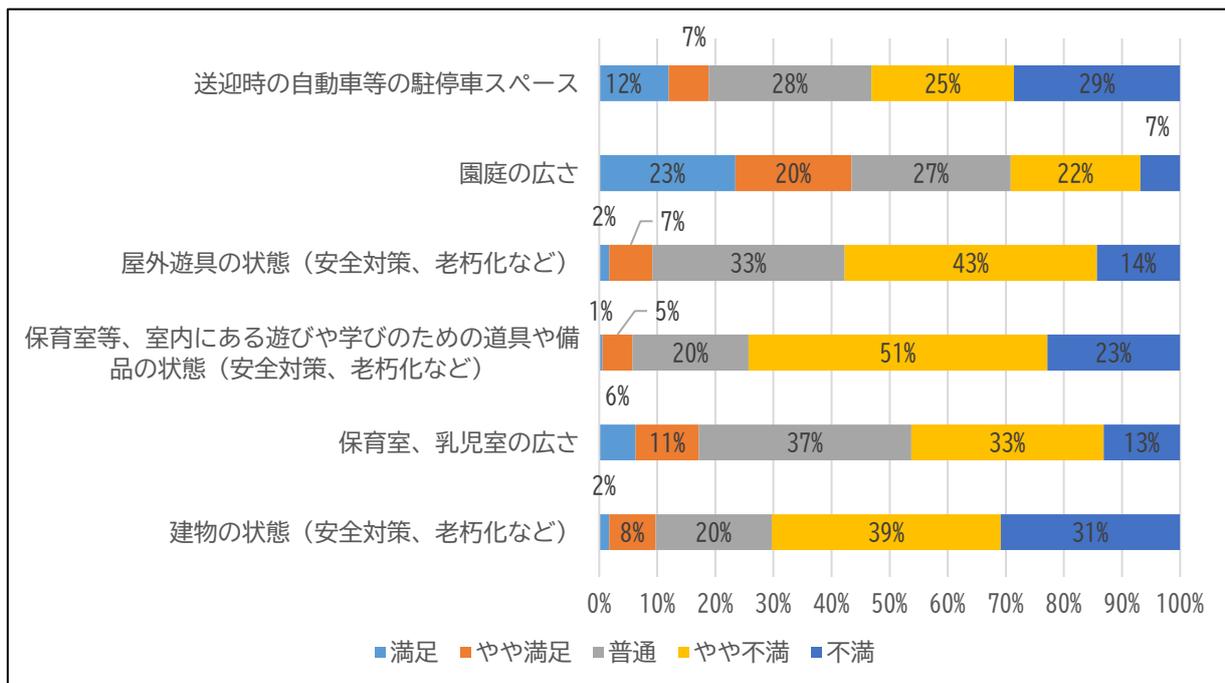


図 11 満足度（保育士）

※ 割合（％）については、端数処理の結果、合計が100%にならない場合があります。

エ 給食の提供方法

本市の公立保育園の給食の提供方法について、祖父江地区では祖父江町学校給食センターで調理された食事を提供する「給食センター方式」、祖父江地区以外の市内公立保育園では、各保育園に調理室を設置しているため、調理室で調理された食事を提供する「自園調理方式」となっています。

新たな保育園を整備する際の給食の調理・提供方法の希望についてお聞きした結果が、図 12 となります。

保護者は「どちらでもよい」が5割以上との結果に対し、保育士は「自園調理方式」を望む回答が7割以上との結果になりました。

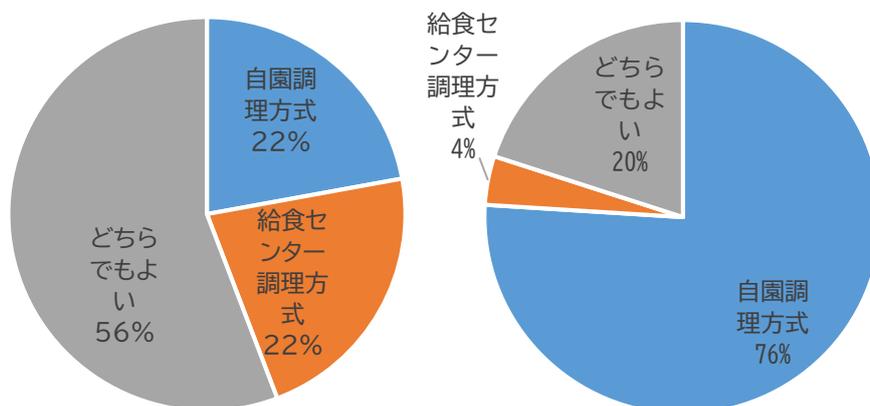


図 12 給食の提供方法（左：保護者、右：保育士）

オ 保育園舎等の重視すべき機能

新たに公立保育園を建設する際にどのような点を重視するべきか、また、どのような機能が必要かをお聞きした結果が、図13（保護者）、図14（保育士）となります。設問は選択式（最大3つまで）となっています。

保護者については、一番重視すべき点として「防犯・安全対策が充実した園舎の整備」、2番目に「子どもの送迎がしやすい駐車場の整備」、3番目に「ゆとりのある広さを確保した乳児室や保育室、廊下がある園舎の整備」という結果になりました。

保育士については、一番重視すべき点として「ゆとりのある広さを確保した乳児室や保育室、廊下がある園舎の整備」、2番目に「現在の保育園よりも充実した設備の園舎の整備」、3番目に「防犯・安全対策が充実した園舎の整備」という結果になりました。

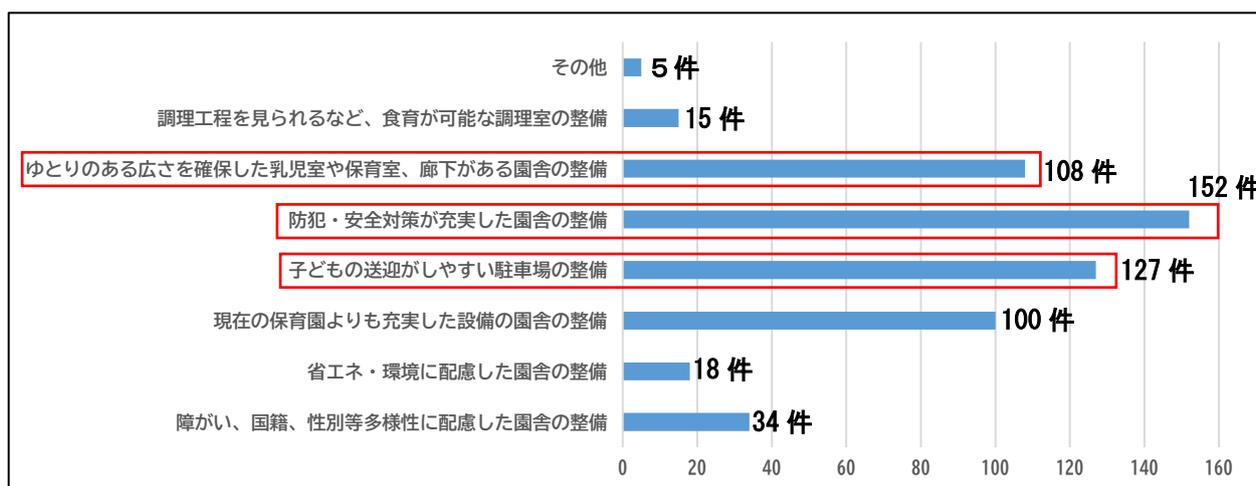


図13 保育園舎等の重視すべき機能（保護者）

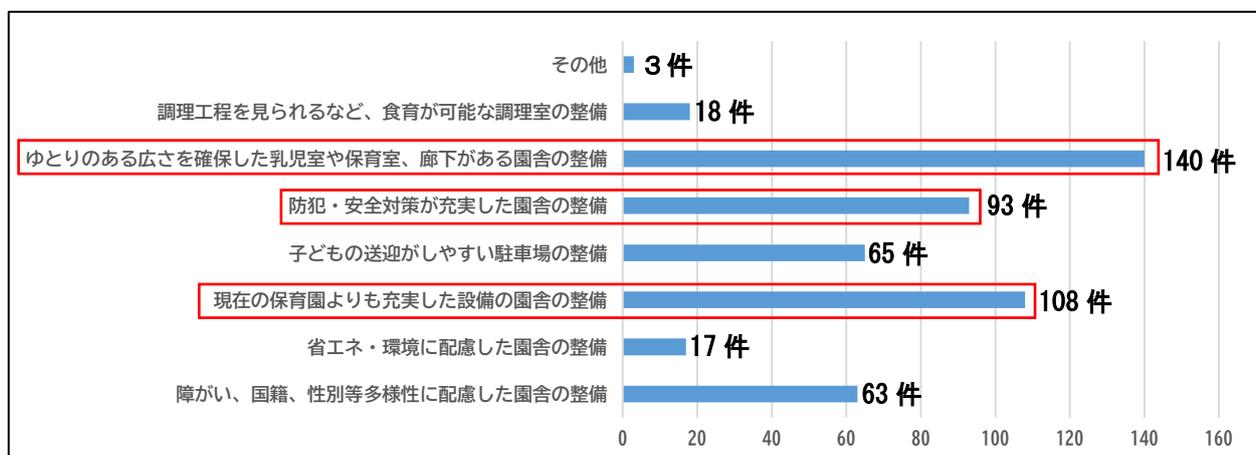


図14 保育園舎等の重視すべき機能（保育士）

5 ワークショップ

(1) 目的

利用している保護者の視点と、実際に働いている保育士の視点から、新たに公立保育園を建設する際の機能・設備などのアイデアを発掘することを目的としました。

(2) 開催概要

開催日	令和6（2024）年6月29日（土）	令和6（2024）年7月5日（金）
開催時間	午前9時30分から11時30分まで	午後4時から6時まで
開催場所	祖父江生涯学習センター 第2研修室	
対象者	祖父江地区の公立保育園に通園する児童の保護者及び 稲沢市内の公立保育園に勤務する保育士	
参加者数	11人（保護者5人、保育士6人）	15人（保護者9人、保育士6人）

(3) ワークショップの実施方法

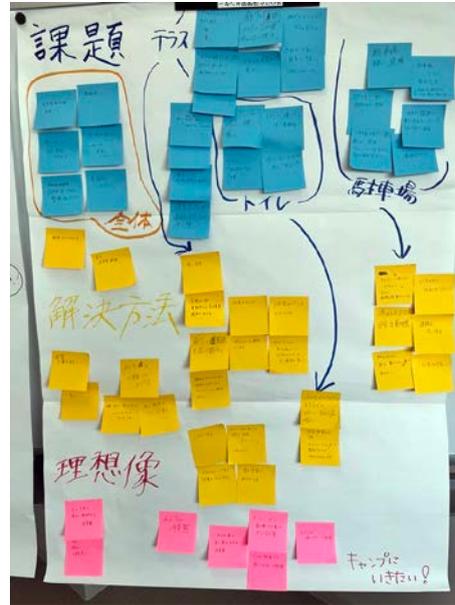
5～6人ごとのグループに分かれたグループワーク形式で開催しました。グループワーク形式は、話し合いの場において、参加者がグループ内で知識や考えを共有することで、多様な意見の創出が期待される手法です。

<ワーク行程>

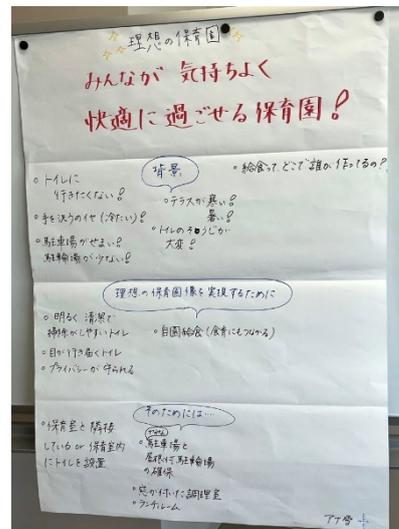
ワーク I	思いついたことを付箋に記載する
概要	次の項目に係るアイデア・意見を付箋に記載する。（事前課題として周知） ① 現時点の祖父江地区公立保育園の施設設備面で課題と思われる点 ② ①の課題の解決方法（『～だといいなあ』） ③ 理想の保育園像（ワンフレーズで）
効果	書き出すことにより、自分の考えを整理することができる。



ワークⅡ	書き出した付箋を整理する
概要	付箋に書かれたアイデア・意見の中で、似たアイデア同士をグループ分けし、用意した模造紙上で整理する。
効果	他者の意見を理解できるとともに、新しい意見が創出しやすくなる。



ワークⅢ	アイデアをまとめる
概要	整理したアイデア・意見をもとに、新たな保育園像（理想の保育園像）を創る。
効果	整理したアイデアをもとに、グループ内で意見交換を行うことで、より高度な議論ができる。



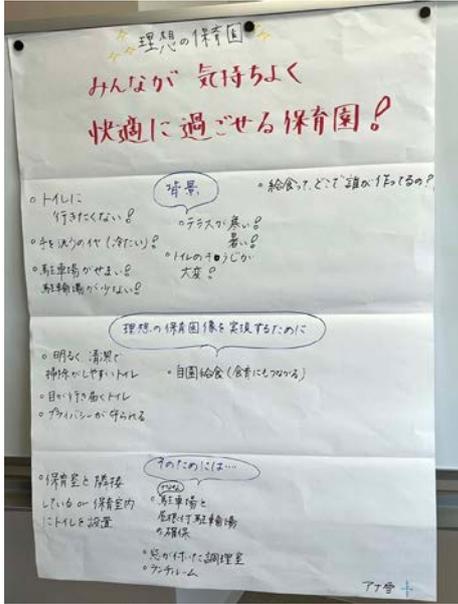
ワークⅣ	グループで発表する
概要	グループで話し合いを行った結果を、全体発表を行って他のグループと共有する。 全体でアイデアを共有することで、他のグループの話し合いで出された多様な意見を知ることができる。
効果	参加者全員で意見を共有することで、自グループでは出なかったアイデアに気が付くことができる。



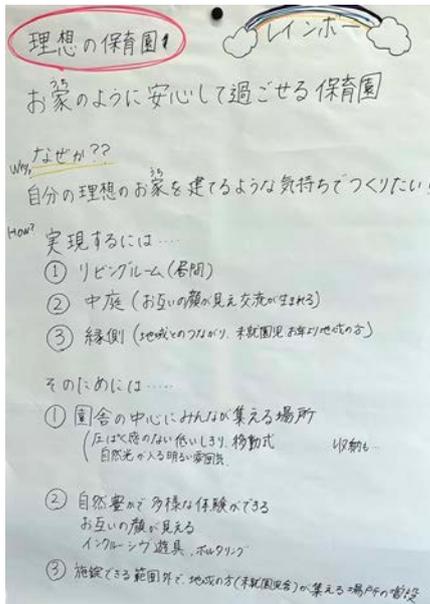
(4) 保護者・保育士からの主なアイデア、発表内容

ア 令和6（2024）年6月29日（土）開催

- ・ A班（グループ名：アナ雪）は、理想の保育園像を「みんなが気持ち良く快適に過ごせる保育園！」と掲げ、課題として、（薄暗い雰囲気であるため、）園児が行きにくいトイレや駐車場・駐輪場の狭さ、テラス（外廊下であること）等を指摘していただきました。その課題に対する解決策のアイデアとして、明るく、掃除がしやすく、清潔さを維持することができるトイレ、プライバシーを守りながら、保育士の目が行き届くトイレの整備、保育室付近でのトイレの設置や、室内の手洗い場の設置、中廊下の設置、自園調理方式の採用（調理室の設置）、屋根付き駐車場整備等を提案していただきました。

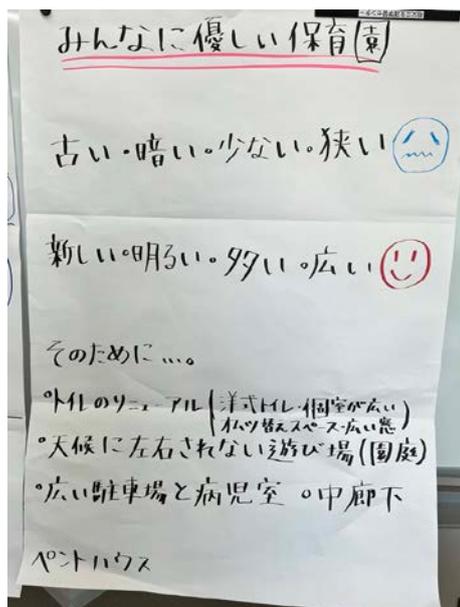


- B班（グループ名：レインボー）は、理想の保育園像を「お家のように安心して過ごせる保育園」と掲げ、その背景は、「自分の理想のお家を建てるような気持ちで作りたい」というものでした。その背景を実現するアイデアとして、園舎の中心に皆が集えるよう、圧迫感のない低いしきりの設置や移動式の壁の設備、インクルーシブ遊具の設置、（防犯安全上の問題なく）地域交流ができるスペースの整備等を提案していただきました。

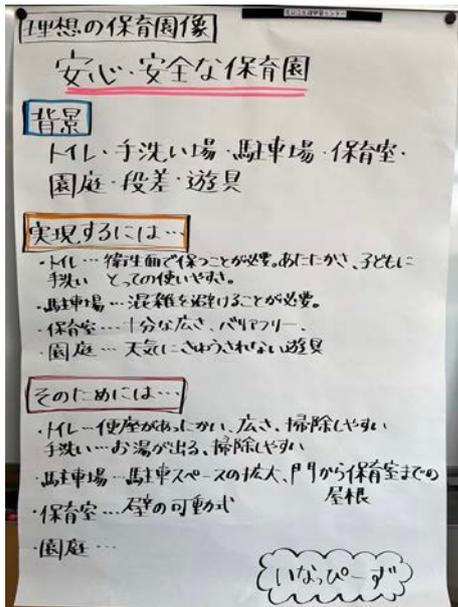


イ 令和6（2024）年7月5日（金）開催

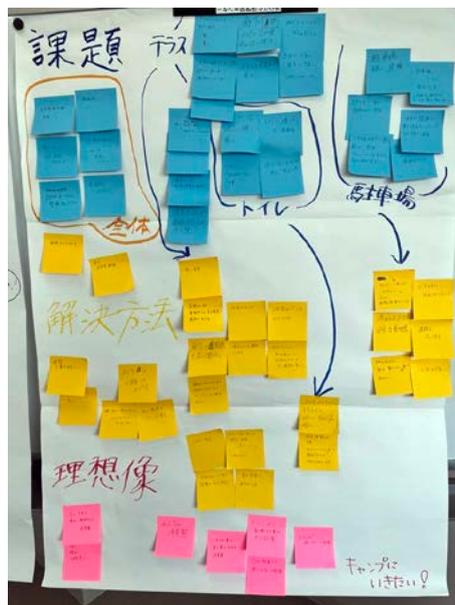
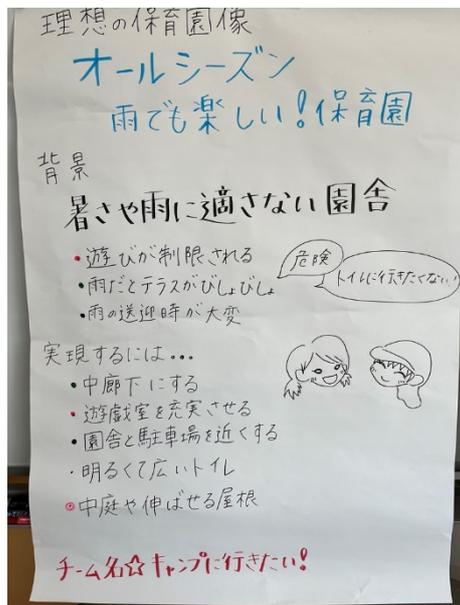
- ・ A班（グループ名：ペントハウス）は理想の保育園像を「みんなに優しい保育園」と掲げ、課題として、現在の祖父江地区の公立保育園は（園舎が）古い、（トイレが）暗い、（駐車場が）狭いこと等を指摘していただきました。その課題に対するアイデアとして、トイレのリニューアル（洋式トイレ、個室を広く、オムツ替えのスペースの設置）や広い駐車場の整備、病児室の設置、中廊下の設置等を提案していただきました。



- ・ B班（グループ名：いなっぴーず）は理想の保育園像を「安心・安全な保育園」と掲げ、課題として現在の祖父江地区の公立保育園はトイレが古い・暗い、段差がある、保育室や駐車場が狭いこと等を指摘していただきました。その課題に対する解決策のアイデアとして、温度調整ができる便座や（個室が）広く、清掃がしやすいトイレの設置、十分な広さのある駐車場の整備、玄関から保育室まで濡れないような屋根及び中廊下などの整備、お湯が出る手洗場の設置、可動式の壁がある保育室の整備等を提案していただきました。



- ・ C班（グループ名：キャンプに行きたい）は理想の保育園像を「オールシーズン雨でも楽しい！保育園」と掲げ、課題として現在の祖父江地区の公立保育園は暑さや雨に適さない園舎であることを指摘していただきました。その課題に対する解決策のアイデアとして、中廊下の設置や遊戯室（の機能、広さ）の充実、園舎までの距離が近い駐車場の整備、明るく、スペースが広いトイレの設置、中庭の整備、伸ばせる屋根の整備等を提案していただきました。



(5) まとめ

ご提案いただいたアイデアを総括的に見ると、『快適なくらし、快適な空間の確保』を望んでいることが推考できました。具体的な設備案の一例として、トイレに関して言えば、いつでも清潔で明るい雰囲気なら、子どもたちも怖がることなく自分でトイレに行けるようになると考えられます。また、設置場所についても、自然の光が入ってくる明るい場所に設置する等が考えられます。さらに、安全のために保育士が見守りやすいデザインや、子どもに合ったサイズの用具を取り付けるなどが考えられます。

6 祖父江地区の公立保育園の再配置について

(1) 再配置の基本的な方針

これまでのことを踏まえ、祖父江地区の公立保育園の再配置については、「**新しい魅力的な園舎でより良い保育の実践**」を前面に出し、基本的な方針を次のとおり掲げます。

- ① 集団保育の適正規模確保（子どもたちの協同性の育ち、子ども同士での学び合い）
- ② 新しい施設・設備・園庭により、本市の主体的な保育の展開を補強。
- ③ 祖父江地区の中心となる新保育園では、特別保育全メニューの実施。

(2) 再配置検討の前提条件

再編の具体的な方法の検討にあたっての前提条件を、次のとおりとします。

- ① 就学前児童数の減少に伴い、適正規模での施設数とする。
- ② 祖父江地区全体で考える。
- ③ 原則として、既存ストックを活用する。
- ④ 跡地の活用可能性も考慮する。

(3) 祖父江地区の公立保育園等の再配置案について

ア 再配置・建替えのイメージ（案）

図 15 に祖父江地区公立保育園全体の再配置・建替えのイメージ案を示します。まず、保育園の再配置を考えるにあたり、保育園の将来の適正規模を把握する必要があり、将来推計を行った結果、祖父江地区全体の保育園等の認可定員を 600 人、利用定員を 500 人、と想定しました。

集団保育の適正規模、跡地活用の可能性、祖父江幼稚園の建て替え・認定こども園

への移行を考慮した上で、本市の保育の特徴である「主体的な保育」を祖父江地区で実施していくため、公立保育園6園、民間幼稚園1園を公立保育園2園、民間認定こども園1園に再配置する案を考えました。

公立保育園2園の設置場所について、まず、公立保育園6園のうち築年数が一番若い牧川保育園を、新保育園の供用開始時期に園名を変更した上で現状維持とし、残りの1園については、祖父江6園のうち敷地面積が最も大きい領内保育園の跡地に認可定員200人から250人の新保育園を設置することを考えました。

なお、祖父江幼稚園については、令和7（2025）年度に創立100周年を迎え、それを契機として、認可定員150人から200人程度の施設に建て替え、幼稚園から認定こども園へと移行する意向があるとのこと。

イ スケジュール

図16に祖父江地区公立保育園全体の再配置・建替えのスケジュール案を示します。

牧川保育園を除いた祖父江地区の保育園は昭和44（1969）年頃から昭和48（1973）年頃に建てられた木造建築物であり、平成28（2016）年に耐震化改修を行っています。改修工事を行うにあたり、国の補助金（社会資本総合整備交付金）及び地方債を活用しています。

そのため、国の補助金や地方債償還の関係から令和8（2026）年度までに解体・除却をしてしまうと、補助金の返還を求められ、市の収入の一つである地方交付税が解体除却以降に不利な状況となってしまいます。

こうした状況も踏まえ、新保育園の設置については、令和9（2027）年度以降に領内保育園の解体設計・工事、令和11（2029）年度から新保育園の建設工事とするスケジュールを考えています。

新保育園の工事期間中は、祖父江、山崎、丸甲保育園の3園を仮設園舎的に活用することを考えています。

なお、「こども誰でも通園制度」などの新たな制度への対応や乳児保育の需要が毎年高まりを見せていること等にも鑑み、将来の保育の需要を見極めながら柔軟に取り組みを進めます。

(4) 再配置による廃園後の跡地活用について

祖父江地区の公立保育園は全て市街化調整区域内にあり、跡地活用については、用途変更であっても、開発同様に都市計画法による制限を受けることとなります。

今後は市だけで活用を検討するのではなく、サウンディング型市場調査を行うなど、公民連携での有効活用も視野に入れ、様々な手法・可能性を検討していきたいと考えています。

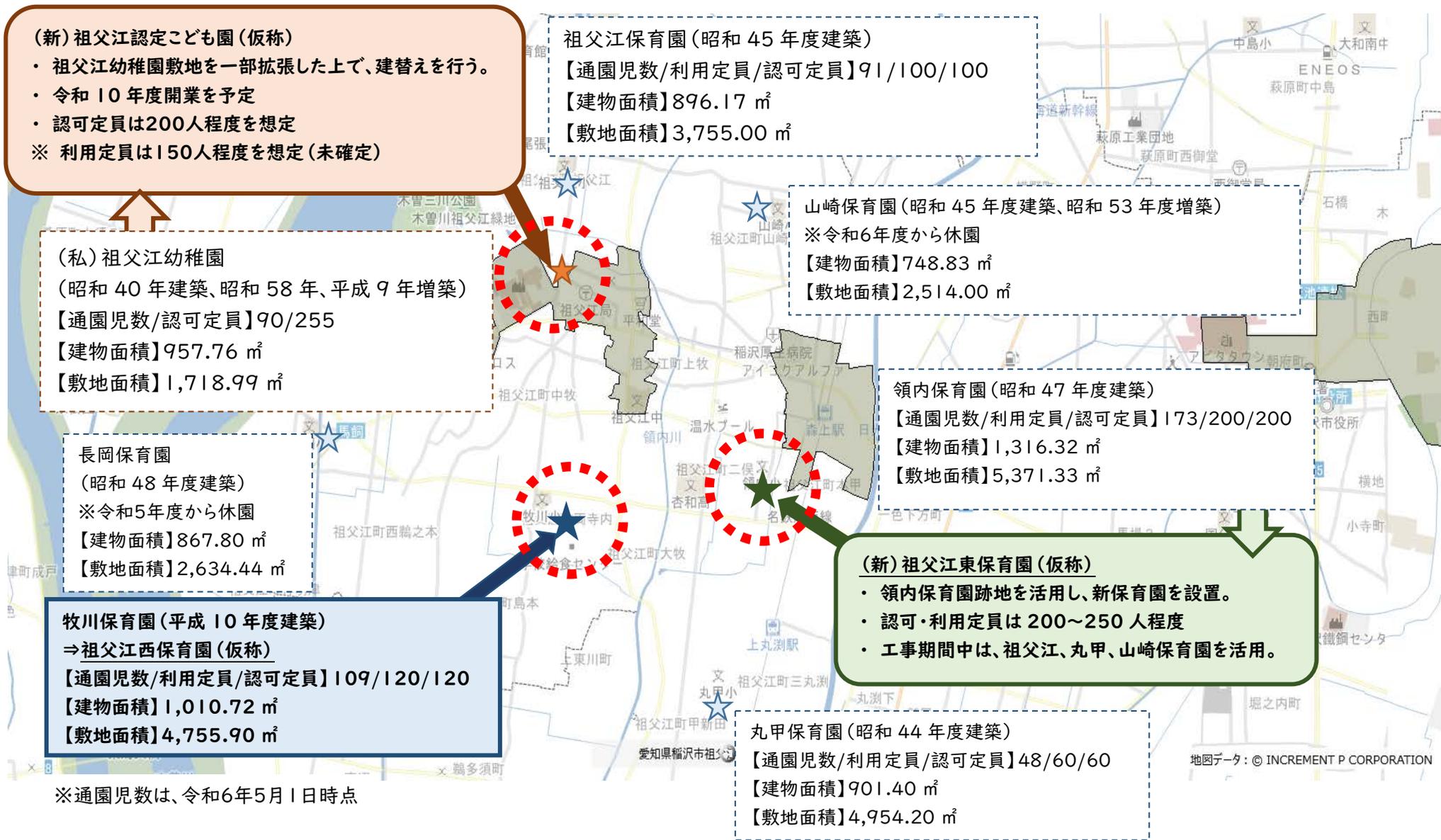


図 15 祖父江地区の公立保育園の再配置・建替えのイメージ案

園名	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
※ 参考				<ul style="list-style-type: none"> ・ 地方債償還完了 ・ 補助金取得後10年経過 							
【私】祖父江幼稚園⇒(仮)祖父江認定こども園				← 設計・建設工事？	→			供用開始？			
祖父江保育園					<ul style="list-style-type: none"> ・ 領内保育園整備期間中の園児を受入れ 			<ul style="list-style-type: none"> ・ 年度末をもって閉園 	解体設計	解体工事	
山崎保育園		・ 4月～休園中			<ul style="list-style-type: none"> ・ 領内保育園整備期間中の園児を受入れ 			<ul style="list-style-type: none"> ・ 年度末をもって閉園 	解体設計	解体工事	
丸甲保育園				解体設計・解体準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 領内保育園整備期間中の園児を受入れ 			<ul style="list-style-type: none"> ・ 年度末をもって閉園 	解体設計	解体工事	
領内保育園			基本構想・基本計画 ※市民参加を含む		<ul style="list-style-type: none"> ・ 在園児を他保育園へ移動 						
新保育園⇒(仮)祖父江東保育園			整備方針・周知等 ※市民参加(ワークショップ)を含む								
新保育園⇒(仮)祖父江東保育園					基本設計	実施設計	建設工事 ※園舎・外構等含む				供用開始
牧川保育園⇒(仮)祖父江西保育園								<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊具リニューアル 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園名変更 		
長岡保育園		・ 4月～休園中							解体設計	解体工事	

図 16 祖父江地区の公立保育園の再配置・建替えのスケジュール案

7 新保育園整備のコンセプト

新たな公立保育園を整備するにあたり、「新しい魅力的な園舎でより良い保育の実践」を実現するため、また、公共施設でもあることを踏まえ、新保育園のあるべき姿・果たす役割を次のとおり設定します。

① 稲沢市の特徴である「子ども主体の丁寧な保育」を施設面で補完できること

本市では、これからの時代を生き抜く児童に必要な、自分で考え自分から行動する力や非認知的能力を伸ばす保育を0歳児から行っています。

- ・ 「子どもを尊重する保育」ガイドラインを設け、市で働くすべての保育士が遵守して、丁寧な保育を行う。
- ・ 食事とおむつ替えは同じ保育士が丁寧に関わる育児担当制（乳児）
- ・ 子どもの主体性“おもしろそう、やってみたい”を尊重し支える保育

など、発達に応じた子どもの“主体性”を大切にした生活や遊びの保育環境を提供できる園舎・園庭を目指します。

② 利用児童の「快適な暮らし、快適な空間」を確保すること

保護者と保育士に対するワークショップを実施した際、多くのアイデアに共通するものが「利用児童の『快適な暮らし、快適な空間』を確保すること」でした。また、アンケートにおいて、多くの保護者、保育士が新たな保育園の必要な機能として、「防犯・安全対策が充実した園舎の整備」、「ゆとりのある広さを確保した乳児室や保育室、廊下がある園舎の整備」を望む結果となりました。

少子化の影響から、就学前児童数は減少傾向にありますが、女性就業率の上昇傾向、共働き世帯の増加などにより、保育所等を利用する割合は増加傾向にあります。そのため、子どもが人生の始期に一日の長い時間を過ごす場として、保育室等が「快適な暮らし、快適な空間」であることは、「集中力」や「感受性」の健やかな発達に大きな影響を与える可能性があります。

以上のことから、本市が新たに整備する保育園において、子どもが「快適な暮らし、快適な空間」を確保するために、

- ・ 保育室などの空間が安全で庇護的な園舎であること。
- ・ 部屋の広さ、空間の大きさに配慮した園舎であること。
- ・ 室温だけでなく、光や音、香りなど「暖かさ、居心地良さ」を確保した園舎であること。

- ・ 保育士など保育園に関わる者が愛着を持てる園舎であること

を目指します。

③ 人種、性別、宗教、障がいなど様々な個性を持つ園児を受け入れることができること

本市では、公立・私立を問わず、全ての園で障がいのある児童や、その他支援が必要な児童に対し、「個」ではなく、園という「環境」全体で支援するインクルーシブ保育を目指した発達支援を令和6（2024）年度から実施しています。

また、本市においても外国籍の就学前児童の利用が増えており、今後も増えていく可能性があります。

保育の目的や保育内容については、『保育所保育指針』（平成29年3月31日厚生労働省告示第百十七号）によって、基準が定められていますが、食事や排泄などの基本的な生活習慣をはじめとして、そこで行われる保育実践は健常児を想定したものであり、また、日本の文化に基づいています。そのため、例えば、発達障害児等や外国人児童が保育園に入園した場合など、保育園側でそれまでの保育を見直し、工夫していく必要が生じます。そのような日常の保育では、ユニバーサルデザインを取り入れるなど、多様な児童を受け入れ、保育士の負担感を少しでも軽減できるよう、施設面で援助する園舎を目指します。

④ 社会環境が短期間で変化するため、その変化に応じて保育士が対応でき、また、質の高い保育サービスを提供できること

令和2（2020）年頃、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的な流行により、「新しい生活様式」が呼びかけられました。保育現場においては、特に、子ども同士や保育士との距離が近く、日頃から会話を交わすなどの環境にあります。また、子どもの中には、様々な感染症を予防するための免疫が弱く、感染した場合に発症しやすい子どももいます。そのため、保育園においては、手洗いなどの手指衛生、マスクの着用、衝立の設置などの対策に加え、職員が体調不良の場合、出勤を控えるなどの職員体制によって対応してきました。

また、前述の「子ども主体の丁寧な保育」を実践するにあたり、保育士は子どもの主体性が発揮される姿を踏まえながら、空間環境と発達、子どもの活動の関係を見て、家具等を活用して小さな空間を作ることで、子どもが自発的に関わりたくなるような環境を整えています。

『稲沢市公共施設等総合管理計画』（令和4年3月改訂）において、公共施設の耐用

年数として 80 年維持することを目標としておりますが、施設を運営・維持している間に社会環境が短期間で変化することが想定されます。その変化に応じて保育士が対応しながら、質の高い保育サービスが提供できるよう、汎用性の高い園舎を目指します。

⑤ 災害に強く、被災しても素早く保育サービスを提供できること

平成 23（2011）年の東日本大震災、令和 6（2024）年の能登半島地震といった大規模な災害や、台風、ゲリラ豪雨など、毎年のように自然災害が発生しています。今後も、南海トラフ地震や気候変動の影響による水災害の頻発化や激甚化が懸念されており、そのような災害が発生した状況の中で保育園の役割は、「子どもを安全に保護者の元に引き渡すこと」です。また、発災後においても、医療関係者や災害対策・復旧に関する業務に従事する関係者を始め、保育を必要とする人がいます。保育を必要とする人がいる限りは開園する義務があり、一日でも早く業務を再開させる必要があります。

また、公立保育園は福祉避難所に指定されており、妊産婦など、通常の避難所で生活することが困難な方を受け入れる場所になります。

そのため、耐震性など災害そのものに強い園舎であるとともに、水、食料等が備蓄できる空間があるなど、被災しても素早く保育サービスを提供できる園舎を目指します。

稲沢市祖父江地区公立保育園再配置基本方針

令和7年3月

作成・発行 稲沢市

所在地 〒492-8269
稲沢市稲府町1番地